

鶉・宮ノ下地区社協が鶉小学校  
4年生を対象に取り組んでいる  
「子ども福祉委員」活動について  
ご紹介します！

# 鶉・宮ノ下地区社協が地域で取り組む福祉“共”育



## 取り組んだきっかけ

地域の中で地区社協や福祉委員など、地域福祉に関わる人のことを幅広い世代に知ってもらいたいという思いがありました。そこで、小学校や市社協など、様々な関係機関と相談し、今年度初めて小学校での総合的な学習の時間を活用し、子ども福祉委員活動に取り組みました。

## 子ども福祉委員とは？

### 活動内容

福祉についての講義・体験学習や、高齢者福祉施設、地域の高齢者宅の訪問 小西会長(宮ノ下)と清川会長(鶉)などを地域の大人と一緒にいき、子どもたちが主体となって地域福祉活動に参加する。

### 目的

- ①子どもたちに地域の見守り活動に参加してもらうことで、地域のお年寄りの存在や大切さを知ってもらう。
- ②地域の幅広い世代の人たちに「福祉」への関心を持ってもらう。

### 地域の協力者

鶉・宮ノ下地区社協、民生委員児童委員、福祉委員、鶉小学校、高齢者福祉施設「宝珠苑」、保護者、地域の高齢者



## 子ども福祉委員活動の流れ

10月3日 **任命式、福祉についての講話（授業の一環）**  
鶉小学校4年生38人に福祉委員任命状を交付しました。  
市社協職員による福祉についての説明を受けました。



11月1日 **事前学習（授業の一環）**  
市社協職員より高齢者の身体の変化についての説明を受けました。

11月14日 **高齢者擬似体験、車いす体験（授業の一環）**  
おもりやゴーグルをつけて、歩行のサポートや階段昇降、折り紙を折るなど、子どもたちと高齢者との違いを体験しました。また、車いすの介助方法も学びました。

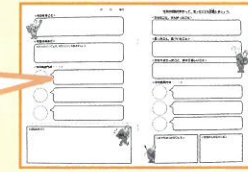


11月26日 **校区内の高齢者福祉施設訪問（授業の一環）**  
校区内の高齢者福祉施設を訪問し、合唱を披露しました。そのあと高齢者と一緒に折り紙をしたり肩たたきをしたりと楽しく交流しました。

12月24日～27日 **近所の高齢者宅訪問（地区社協既存事業の一部）**  
民生委員児童委員や福祉委員、地区社協の方と一緒に高齢者宅を訪問し、メッセージカードと使い捨てカイロを渡して声かけしました。

1月 **活動内容のまとめ**  
福祉新聞を作成しました。  
学んだことを後輩へバトンタッチしていきます。

子ども福祉委員として任命された子どもたちは、「子ども福祉委員活動ノート」に学んだことや感想などを書き込み、そこに保護者や地域の方からもコメントをいただくことで、子どもたちの活動を共有することができました。



「福祉やお年寄りについてもっと知りたい」「お年寄りや車いすの人に会ったら声をかけたい」

### 地域の方の声

「子どもたちに刺激された」「福祉を見直すきっかけとなった」

### 子どもたちの声

### 保護者の声

「福祉について知るきっかけとなった」

### 子ども福祉委員

子ども福祉委員バッジ

子どもたちの活動を通して多くの方が福祉について考えるきっかけとなったようです。各地区でも子どもたちと一緒に福祉“共”育に取り組んでみてはいかがでしょうか。

## 実施のポイント

- ★学校も地域も既存の事業がベースです。日程を組み合わせ「子ども福祉委員」の一年間のプログラムを組み立てます。
- ★経費も既存の事業がベースです。活動ノートやバッジは市社協からの提供があります。

## 目標設定型寄附金のお礼

今年度募集しておりました目標設定型寄附金は、下記のとおり目標を達成しました。たくさんのご協力ありがとうございました！

### No.1 「見えにくさ体験グッズ」

寄附合計額 65,900円  
達成率 219.7% 260セット購入



### No.2 「スカットボール」

寄附合計額 184,510円  
達成率 212.1% 2セット購入



## 湊地区社協 記念誌発刊！



湊地区社協が記念誌「平成30年間のあゆみ」を発刊されました。昭和50年の結成以来40年にわたる地区社協活動を振り返るとともに、これからの地域福祉活動のあり方についても分かりやすく書かれています。

各地区社協にも1冊ずつ配布します。

## 福祉委員スキルアップ研修会を開催しました！

令和元年9月8日(土)、福井県自治会館において市社協と共催で福井県立すこやかシルバー病院の高嶋康子看護部長による福祉委員スキルアップ研修会「認知症の人の暮らしを地域で見守る」を開催し、146名の福祉委員さんの参加がありました。

一言で認知症といっても様々な症状があることや、認知症は早期発見・早期対応で治る場合もあり、治らない場合でも進行を緩やかにすることができるという説明がありました。また、認知症の症状は、周囲の接し方次第で良くも悪くもなるので、接する時は「自尊心を傷つけない」「怒らない」「失敗しても責めない」「笑顔を忘れない」が重要だと教えていただきました。誰もが安心して暮らせる地域づくりのためにも認知症についての正しい知識を身につけたいですね。

